

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174800548		
法人名	有限会社 彩の里		
事業所名	グループホーム わらび苑		
所在地	秩父郡小鹿野町長留3073		
自己評価作成日	平成22年4月5日	評価結果市町村受理日	平成22年7月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1174800548&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年4月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、自然に恵まれた環境の中にあり、四季を肌で感じることができます。利用者個人のペース合わせた環境作りし、希望に沿った生活を支えています。
また、必要な時に必要な介護が受けられるよう努めています。そして、広い畑を利用して野菜を自給自足しています。また、四季をとおして摘み草をしたり、木の実ひろいなどそれぞれの季節を味わうことができます。様々な行事をとりいれ日々の生活の中で季節の移り変わりを感じる生活を行うことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

秩父の山里にある築100年の家屋を改修して造られた1ユニットのホームである。四季の移ろいを感じる事の出来る自然豊かな環境である。広い畑で野菜を作って日々の食材とし、入居者は慣れ親しんだ風景を毎日眺め、畑の草むしりや収穫の手伝い、木の実拾い等をして、これまでの暮らしを継続している。職員は、「楽しい・うれしい・よかった」という入居者の笑顔を見る事で喜びを感じ、働いている。地域の方から、わらび苑主催の茶話会を時々開いて欲しいとの要望があり、実現させたいと検討中である。又、町の担当者との連携が密で、協力も頂き、事業所のサービス向上につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	苑内に掲示したり朝の申し送り時に復唱している。内容の理解に努め、常に理念を意識しながらケアに当たっている。	朝のミーティング時に理念を復唱し、悩んだり迷ったりした時は、理念に立ち戻り、入居者の求めている事は何かと考えるようにしている。地域と事業所の繋がりを踏まえた理念の見直しを考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会やクリスマス会などホームで開催する行事等に招待したり学生ボランティアの受け入れ高校生の体験学習、看護学生の実習の受け入れ等している。また地元の運動会やお祭り等の見学、地元の人達との会話を楽しむなどしている。	散歩の途中に近所でお茶をご馳走になり、野菜の差入れを頂く事もある。ホーム主催の敬老会には地区の方を招待している。高校生の体験学習や看護学生の実習を受入れている。読み聞かせボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々な行事を通して、地域の人達と一緒に食事をしたりお茶を飲んだり共有する時間を楽しんでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催している。昨年は敬老会等の行事に会議を開催し、地域の人達、家族の方にも参加していただいた。また利用者の活動状況や様子を報告したり、家族からの要望をお聞きし共通理解に努め連携を深めている。	地区の集会所で日曜日に開催し、終了後、参加者はホームで入居者と昼食を共し、事業所の実際を見聞きし、意見交換や家族同志の交流も行い、要望等もお聞きしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	秩父市や小鹿野町主催の事例検討会等に参加することで、他事業所や町の職員と情報交換し、交流を図っている。また「わらび苑だより」も町へとどけている。	町主催の研修会や会議に職員が出席し、事業所の実情を伝えて情報も得、双方が協力し合っている。わらび苑便・収穫祭の案内・運営推進会議の報告書等を送付し、取組みを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の方がその人らしく生活できるよう支援するとともに、会議を通して職員全員で拘束をしないケアについて正しく理解できるよう取り組んでいる。	拘束しないケアの実践を職員全員で心掛けている。掲題の研修に参加した職員の報告を共有し、理解を深めるようにし、気づいた時にその都度お互いに注意し合い、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の声に耳を傾け、職員同士連携を密にして見守りをする中で看過しないよう会議を通して正しい理解に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活を支援する中で、利用者の方にとって必要な事は何かを考え支援できるよう会議で話し合う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については入所時に家族等に十分説明し、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族等から意見を聞くほか、職員との会話の中などからも意見を表してもらうようにしている。職員は利用者の会話(意見)を傾聴して運営に反映させている。	毎月の利用料支払い時や、折に触れての面会時に要望を伺うようにし、面会に来られない家族には電話で様子を報告し、要望を伺っている。入居者・家族等の意見は、事業所の大切な宝と考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、カンファレンス・処遇改善会議を実施し、意見交換を行う中で、より良い環境作りを心がけている。	日頃職員と管理者は話易い関係にあり、気づきや提案を管理者に伝えている。月1回の職員会議では、業務全般についての改善点を施設長と一緒に検討し、便秘の改善や、衣類の洗濯方法等、工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件等については、採用時に詳細を説明し、各自の能力が発揮できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護支援専門員は県・町・県社協等主催の研修会に参加し苑内会議で伝達をしている。職員は輪番で順次研修会に参加しそれぞれ伝達をし全員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秩父郡市の事業者連絡協議会や町の研修会等を通して同業者間で交流を図るとともに情報交換をし、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者宅を訪問し面会している。生活状況や環境等の調査を行う。また、日々の暮らしの中でコミュニケーションを多くとる事で利用者の希望や意向の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に利用者宅を訪問する際家族とも面会している。そこでケアについての希望や不安を解消できるよう話し合いを行い、よい関係づくりができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族と面会する中で、必要とするサービスについて話し合い今後の支援につなげるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、郷土の家庭料理や野菜作り、地域のならわしや年中行事など利用者から多くのことをご教示願ひ、ともに生活する中で支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	苑便り、毎月の様子を家族に送付し、状況を家族にも理解していただく事で利用者と家族・苑との関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	状況に応じて体験入居をする事ができる。本人・家族が納得した上で利用している。入居後も利用者一人ひとりのペースで安心して生活できるよう支援している。	本人の希望する馴染みの場所へお連れする個別処遇を実施し、自宅での仏壇参りや墓参、以前住んでいた場所や、本屋さん、洋品店、花屋等へも個々の希望に応じてお連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護計画の作成にあたりケア会議を実施し、利用者同士がよい関係を築けるよう職員が仲立ちをし、お互いに支えあえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に書面にて日常の様子を記載し家族等に説明している。退所後も訪問を実施して、体調を伺いながら相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に家庭を訪問し、利用者や家族と面会をし、サービスについての希望や意向を拝聴し、利用者本位の生活ができるような支援をしている。	自由に暮らせるように支援し、生活歴、職歴、育った環境等から思いを把握し、プライドを育てるよう支援している。入居前に家庭訪問し、本人、家族等から話をお聞きし、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家庭訪問を実施し、生活状況や環境等を調査し、今後のケアに反映できるよう会議で話し合う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの体調や生活リズムを尊重し、その人らしい暮らしが送れるよう見守る中で、畑仕事や買い物、散歩等利用者の希望に寄り添う支援を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議をする中で、本人の希望に沿うような意見やアイデアを反映させた介護計画の作成に努めている。	会議で話合われた個別の支援を集約し、計画作成に反映させ、職員全員で検討している。ふと漏らした言葉や、初めて聞いた事を大切に、職員が共有し、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子等を個別記録をする中で、気づきや改善等を考え、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしい生活を支えるために、ニーズの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人らしい生活を支えるために、本人のニーズの把握に努め、自然の恵みを活かして四季を享受し、豊かで安全な生活を楽しめるよう配慮する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の納得の上で提携医療機関による定期的な受診を支援している。また必要に応じて他の医療機関への受診支援も行っている。	入居時に本人、家族に医療体制を説明し、同意を得て、協力医の定期受診を行っている。結果については、家族に毎月の便りで報告している。かかりつけ医への受診要望があれば、通院の支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に正看がおり、体調の変化や不調時の対応について相談をして、適切な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院については家族との話し合い、また、病院関係者との情報交換や相談にも努め、提携医とも相談をしながら方針を決めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方における対応方法について、家族とよく話し合い提携医とも相談して方針を決めている。職員間は会議での説明やノートの閲覧により方針を共有している。	24時間の医療体制が、現状では出来ない事を入居時に説明している。事業所の可能な支援と、協力医、家族との話し合いをその都度行い、重度化した場合の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議の中で勉強会を開催し、職員(正看)を講師として応急処置や初期対応についての訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、全職員が利用者の避難方法について考えている。地区の方にも避難についてお願いしている。毎週月曜には消火器訓練も実施している。消防訓練計画書を作成し、非常時に備えて備蓄もしている。	消防災害訓練計画に基き、消火器訓練や避難訓練を行っている。8月に心肺蘇生訓練、11月に消防署立会の総合訓練を地域の方の協力を得て行う予定である。当座の非常食も準備し、定期的に見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議においてプライバシーを確保したケアについて勉強会を行っている。利用者への声かけ(言葉かけ)等も人格を尊重するような対応を心がけている。	共同生活の中で、一人ひとりの尊重と、プライバシーを損ねない言葉掛けに注意している。職員の何気ない態度や、トイレ誘導時の対応等について、気づいた事は職員会議で検討している。	全職員が誇りやプライバシー確保について常に具体的に話合う事が大切であり、入居者のその方らしい尊厳ある姿を大切にする思いを持って取組まれる事が求められる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや意思を尊重し、希望を聞きながら思いに沿うように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や生活リズムを尊重しながらその人らしい生活ができるよう、畑仕事、散歩、買い物等利用者の希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の思いや今までの生活習慣等に配慮しその人らしい暮らしが送れるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の生活の中で利用者の好みを把握し、野菜作りをしたり、一緒に準備や食事の片付けをし、作る楽しみにも配慮している。	入居者も育てた野菜を職員と一緒に採り、蒔や蒔掘りを楽しみ、皮むき等の下ごしらえをし、お彼岸のおはぎ、誕生会の赤飯、おやつ作りでも力を発揮している。職員は入居者と共に食卓を囲み、賑やかな食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量、水分量などをチェックし、健康管理台帳に記録し、栄養状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後毎日入れ歯洗浄を実施している。朝食・昼食後は職員と一緒に歯みがきをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに配慮しながら利用者の状況に応じたオムツ・パットを考え、個人にあったケアに努めるとともに自立への支援をしている。	全介助の一人を除き、トイレでの排泄を促す事で布パンツ、紙パンツを使用している。夜間もタイミングを見計らって排泄を促し、おむつを使用しない習慣となるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については水分を多めに摂取したり、野菜、バナナ、さつまいも等を取り入れた献立を工夫したり、健康チェックを行い個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には本人の要望に沿った入浴を支援している。入浴を拒否する利用者には、時間帯を変えたり入浴剤を使用するなど工夫しながら支援している。	土・日を除き週に2～5回本人の要望に応じた個浴を実施して。柚子湯や季節の花での入浴を楽しみ、車椅子の方はシャワー浴を行っている。拒否する方は時間帯を変えて個々に支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に配慮し、個別対応に努めている。また清潔にも注意し、2週に一度洗濯、布団干しを実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は苑で預かり、食後に利用者一人ひとりに手渡しで服薬しており、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や生活習慣を考え個別対応し、畑仕事や散歩、また針仕事等行えるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望で墓参りや外食、実家訪問等している。また、ドライブ等で行った経験のない場所にも出かけられるよう支援している。	天気の良い日は近くへ散歩したり、畑仕事の好きな方の支援や、車で遠出をし、秩父近辺の名所巡りを度々行い、楽しんでいる。本人の希望が叶うような個別支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については家庭にお願いしているが、本人の希望により使用できるよう一定額を預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方とお話ができるよう利用者の希望により電話をかけている。又、用件を家族に伝えてほしい場合は代理で電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花や飾りつけなどして季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	リビングは、テーブルを囲んだ入居者が肩を寄せ合い、のんびり過ごせる空間となっている。玄関から続く廊下は、緩やかな勾配に改修され、木造建築の懐かしい雰囲気の中、節句の飾りを準備し、季節感を取入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファ・いすを置き、利用者同士会話ができたり、独りになれるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ安心して居心地よく過ごせるその人らしく生活できる空間作りをしている。	居室のベッドは事業所で設置し、各自使い慣れた物の持ち込みは自由で、家族の写真を飾っている方や、孫の作品を見せて話をしてくれる方もいて、各自暮らしやすく工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	健康で自立した安全な生活が送れるよう、自分でできた喜びが味わえるようにさりげない介護の支援に心がけている。		